

保育学生のピアノの上達と指導法の関連についての考察

— 保育士養成課程における調査研究 —

The Teaching and Progress for Piano Performance Among Nursery Department Students

— A Survey Study in a Nursery Teacher Training Facility —

環太平洋大学短期大学部人間発達学科

宮坂 まみ

MIYASAKA, Mami

IPU Women's College

Department of Human Development

環太平洋大学短期大学部人間発達学科

小川美智子

MICHIKO, Ogawa

IPU Women's College

Department of Human Development

要旨：近年、短時間でピアノを習得する必要がある保育学生へのピアノ指導についての課題が指摘されている。そこで、音楽の教授に37年間携わってきた第二著者による授業の受講生を対象として調査を行い、効果的な指導のあり方について検討した。調査1では、ピアノのレッスンを受けた経験や習熟度について探索的に調査を行った。その結果、学生の7割以上が入学時にピアノ未経験者であったが、1年8ヶ月経過後には基礎・表現面で上達を感じていた。調査2で役立った指導法について検討したところ、特に未経験者については、弾きやすくなるような譜面上のサポートが有用であると考えられた。さらに、経験者・未経験者ともにメンタル面の支援が役立ったと認識しており、技術面だけでなくメンタル面の支援が重要であることが示唆された。

Abstract：Recently, difficulties teaching students who need to acquire piano playing skills in a short period of time have been pointed out in childcare studies. We investigated effective teaching styles using two surveys for students of music teachers, who had taken part in piano instruction for 37 years. For study 1, over 70% of students were beginners. They felt improvement in basic and expressive skills after 1 year and 8 months. Furthermore, we examined teaching that students felt was effective. The result indicated that correction of music scores made it easier to play, such as writing syllable names for beginners. Importantly, both beginners and experienced students valued mental support.

キーワード：ピアノ, 保育士, 大学教育, 保育士養成課程

Keywords：piano, childcare worker, college education, nursery teacher training facility

はじめに

子どもは遊びの中で学び成長する。子どもの保育にあたっては、子どもの遊びを豊かに展開することが求められる(厚生労働省, 2018)。安全・安心な環境の中で子どもは豊かに遊び、そこで獲得される表現する力はその後の知的活動の基盤となる。「表現」には言語表現だけでなく、音楽表現、身体表現、造形表現など多様な表現方法が含まれる。

先行研究は、就学前における音楽活動の効果に

ついて検討している。例えば、Yazejian & Peisner-Feinberg (2009) は就学前児童を対象に音楽と運動を用いた介入を行い、これらが言語スキルに与える効果について検討した。その結果、受容性言語と音韻認識に関しては介入群と統制群において差は見られなかった一方、介入群はコミュニケーション能力に大きな向上が認められた。また、発達障がいのある児童に対するセラピーにおける音楽の使用は、社会性や感情、モチベーションの促進に寄与するという可能性が示されている(e.g. Kim et al., 2009)。このように、幼児期に

おける音楽表現は子どもの発育にとって重要な要素であり、幼児保育を専攻する学生（以下「保育学生」）はこれらを保育現場で実施する知識や技術を獲得する必要がある。

しかしながら、近年、我が国における保育学生へのピアノ指導についての課題が指摘されている。そのうち、音楽系科目担当教員が遭遇しやすい問題として、入学以前にピアノのレッスンを受けた経験のない学生が多いという点が挙げられる。平松（2009）は担当する学校の入学者のうち42.7%が入学以前にレッスン経験がなかったとしている。斉藤（2013）もまた入学者の半数がピアノ未経験者であるということを課題視している。

先行研究がピアノの習熟を重要視する理由は、保育学生、とりわけ短期大学生は、2年間で資格を取得し現場で実践するための技術を身につける必要があるからである。これに先立ち、入学から半年で保育現場での実習が始まり、この時点で子どもたちの前で童謡などを弾くことが求められる。そのため、ピアノ未経験者やブランクのある学生、経験の浅い学生への音楽指導は、保育者養成系の短期大学において短期間で成果を上げる必要のある非常に重要なテーマとなっている。

第二著者は音楽の教授に37年間携わっている音楽系科目指導教員として、ピアノ初心者の学生を短期間で園児の前で演奏可能なほどに上達させている。第二著者は、「ピアノの指導において特に大切な点は学生を信じることであり、それしかない」と考え指導にあたっている。しかしながら、第一著者は、こうした抽象的な信念はなんらかの指導上の具体的な行動として反映されているはずであると考えた。その点を明確にすることで、保育学生のピアノの教授にあたる若手教員に指導上の示唆を提供することが可能であると考えられる。

そこで本研究では第二著者による授業の受講生を対象としてアンケートを行い、1年8ヶ月でのピアノ習熟の変化と効果的な指導のあり方について考察する。

調査1 保育学生のピアノ学習状況と指導法に関する探索的研究

1. 目的

研究1では、保育学生のピアノ学習歴や学習状況を確認する目的で、調査を行なった。

2. 方法

1) 調査対象と手続き

幼児教育を専攻する女子短期大学2年生51名が調査に参加した。平均年齢は21.4歳（ $SD = 5.4$ ）であった。学生は無償で回答に参加し、所要時間は10分程度であった。入学は2018年4月、調査実施時期は2019年11月であった。

2) 質問紙

質問紙は、入学時のピアノ学習歴、入学時と現在の習得状況、入学時に弾けた曲と現在弾ける曲、役に立った指導内容から構成された（付録1）。

入学時と現在の習得状況については、音楽系科目指導教員である第二著者がピアノの学習において重要と考える基礎的な技術の習得状況と表現上の技術、および練習状況（「右手だけで弾くことができる」「曲の内容をイメージする」「友だちに教えてもらいながら練習する」など。以下、「習得状況」とする）を取り上げ、回答者は自分自身に当てはまるものに○、当てはまらないものに×をつけて回答した。

役に立った指導内容については自由記述での回答を求めた。

3) 分析手続き

分析はR version 3.6.1 (R Core Team, 2019) を用いて行った。まず、習得状況とピアノ経験の関連についてフィッシャーの直接確率計算を用いて検討した。

役に立った指導内容についての回答を、類似した内容ごとに分類した。複数の文に渡る回答については、記述した内容を文ごとに分け、複数回答とした。

4) 倫理的配慮

回答を求めるときには、回答するか否かは自由意志に基づくこと、授業の成績とは無関係であること、回答しなかったとしても不利益は生じないことを伝えた。

3. 結果

1) 入学時のピアノ経験

入学時のピアノ経験の程度は表1の通りであった。ピアノ経験者は回答者全体の27.5%であり、未経験者72.5%のうち全く触ったことのない学生が過半数を占めていた。ピアノ経験者の平均経験年数は1年7ヶ月（ $SD = 3$ 年2ヶ月）であった。経験者のうち1名だけが入学時と調査時にピアノ教室に通っていた。

表1 入学時のピアノ経験（人）

経験の程度	人数	%
経験者	14	27.5
未経験者	37	72.5
まったく触ったことがない	(22)	
小中学校の授業で習った程度	(15)	

2) 技術習得状況・練習状況

基礎的な技術の習得状況、表現上の技術の習得状況、および練習状況の記述統計量は表2の通りである。また、ピアノ経験の有無と習得状況の関連について分析した結果および入学時と調査時における変化率を表2に示した。

3) レポートリー

入学時に弾けた曲として、ピアノ未経験者37名中17名（まったく触ったことがない学生11名、授業で習った程度の学生6名）は「ない」と回答した。その他の代表的な回答は「ねこふんじゃった」「ドレミのうた」「かえるのうた」であった。これらの学生は調査時には弾ける曲として保育実習で求められる童謡やバイエル、ブルグミュラーを挙げた。

4) 役に立った指導内容

学生が役に立ったと考える指導内容についての自由記述を分類した結果、基礎的な技術に関するサポート、表現の技術に関するサポート、メンタル面のサポートの3点が挙げられた。代表的な回答を以下に示す。

①基礎的な技術に関するサポート

- ・「最初から両手で弾こうとしないで、右手だけ弾いて、左手だけで弾いて練習するということ」
- ・「サポート（楽譜の読み方など）」
- ・「ドレミのある楽譜」
- ・「難しいところを先生に曲に合うよう簡単になおしてもらっている」
- ・「指番号を楽譜に書く」
- ・「実演して教えてくれる指導」
- ・「コードを見て弾けたこと」など

②表現の技術に関するサポート

- ・「強弱をつける」
- ・「リズムの取り方」
- ・「表現というか弾き方」
- ・「イメージ作り」など

表2. 習得状況について「あてはまる」を選択した学生の割合（%）とFisher's exact testによる比較、および二時点の変化率

	入学時			調査時			変化率				
	経験有り	経験無し	<i>p</i>	経験有り	経験無し	<i>p</i>	経験有り	経験無し			
基礎的な技術	右手だけで弾く	85.7	67.6	.297	100.0	100.0	1.000	1.2	1.5		
	左手だけで弾く	78.6	18.9	<.001	***	85.7	94.6	.300	1.1	5.0	
	両手で弾く	78.6	5.4	<.001	***	85.7	97.3	.179	1.1	18.0	
	楽譜を見て弾く (階名あり)	92.9	51.4	.008	**	92.9	89.2	1.000	1.0	1.7	
	楽譜を読む	85.7	40.5	.005	**	85.7	81.1	1.000	1.0	2.0	
表現上の技術	曲の内容をイメージ	21.4	10.8	.376	57.1	86.5	.051	†	2.7	8.0	
	楽しんで弾く	50.0	43.2	.757	78.6	89.2	.376		1.6	2.1	
	リズムをイメージ	35.7	18.9	.272	78.6	73.0	1.000		2.2	3.9	
練習状況	一人で練習する	71.4	48.6	.210	85.7	91.9	.606		1.2	1.9	
	友だちに教えてもらう	14.3	43.2	.099	†	14.3	59.5	.005	**	1.0	1.4
	ピアノ教室に通う	7.1	2.7	.478	7.1	5.4	1.000		1.0	2.0	

注：経験有り：入学時までにはピアノを習ったことがある，経験無し：入学時までにはピアノに触ったことがないまたは授業で習った程度，***： $p < .001$ ，**： $p < .01$ ，*： $p < .05$ ，†： $p < .10$

③メンタル面のサポート

- ・ 「先生や友達の応援」
- ・ 「先生からのサポート・応援」
- ・ 「落ち着いて弾く」
- ・ 「弾けなくても怒られないから楽しく練習できた」
- ・ 「緊張したときに、優しく声をかけてもらった」
- ・ 「将来保育の現場で役に立つ」 など

④授業構成

- ・ 「その授業で、絶対先生が指導して頂ける時間があること」
- ・ 「1対1で先生と練習をすること」 など

4. 考察

保育学生の入学時におけるピアノ経験について調査を行なった結果、幼児保育を専攻しようとする学生の多くが入学時にピアノ経験を有していないという先行研究の知見と一致した結果が得られた。

基礎的な技術の習得状況に関しては、入学時にはピアノ未経験者はピアノ経験者と比べて有意に未習得の学生が多かった。一方、調査時にはほとんどの学生が基礎的な技術を習得できていると感じていた。

表現上の技術の習得については、入学時、調査時ともに経験の有無との関連は見られなかった。増加率をみると、経験者、未経験者ともに2倍程度に増加していることが分かる。経験者については、入学当時より楽譜を見て音を出すという基礎的な技術を習得しており、在学中に表現面を向上させた学生が多いと言える。未経験者については、入学時に両手で弾くことの出来た学生が5.4%から97.3%へ増加しており、さらに特筆すべきこととして、曲の内容をイメージして弾いたり楽しんで弾いたりする学生が9割近くを占めている。

また、調査時には、一人で自主練習を行ったり、友達に教えてもらいながら練習を行ったりする学生が増加している様子がうかがえる。

役に立った指導内容として、階名を振るなどの技術面へのサポートやリズムの取り方などの表現面へのサポート、応援などのメンタル面へのサポートが挙げられたことを踏まえると、こうした授業内外での支援が、1年半という短期間で学生のピアノの上達や自主練習をしようとする意欲を引き出していると考えられる。

この指導内容についてより詳しく調査することで、保育学生への音楽の指導のあり方についての理解を深めることができると考えられる。そこで、調査2で

は、学生が回答した指導内容の自由記述の結果を踏まえ、特に重要な指導上のポイントについて検討する。

調査2 入学時のピアノ経験の有無別にみるピアノの効果的な指導法についての検討

1. 目的

調査1で学生が回答した指導内容の自由記述の結果を用いて、選択肢式の質問紙を作成した。調査2では、本質問紙を用いて、ピアノの習熟や練習に効果的な指導のポイントを入学時のピアノ経験別に検討した。

2. 方法

1) 調査対象と手続き

調査1と同一の女子短期大学生2回生51名が調査に参加した(平均年齢21.4歳, $SD = 5.4$)。学生は無償で回答に参加し、所要時間は5分程度であった。入学は2018年4月、調査実施時期は2019年11月であった。

2) 質問紙

質問紙は、初心者向けのサポート面、表現上の技術面へのサポート、およびメンタル面へのサポート面の10項目から成った(付録2)。回答者は、短期大学在学中のピアノの授業や練習について思い出し、ピアノをうまく弾けるようになるために役に立ったかどうかを「あてはまらない」「どちらともいえない」「当てはまる」の3件法で回答した。また、最も役に立ったと思う項目を1つ回答した。

3) 分析手続き

分析はR version 3.6.1 (R Core Team, 2019) を用いて行った。「あてはまらない」を0点、「どちらともいえない」を1点、「当てはまる」を2点とした。2件で欠損値がみられたため、平均値を用いて補完した。

まず、項目ごとの平均点について、母平均が「どちらともいえない」かどうか1サンプルのt検定を用いて検討した。次に、経験有り群と経験無し群の平均値の差を対応のないt検定を用いて比較した。等分散が仮定されない場合はWelchのt検定を用いた。

4) 倫理的配慮

調査1と同様、回答するか否かは自由意志に基づくこと、授業の成績とは無関係であること、回答しなかったとしても不利益は生じないことを伝えた。

3. 結果

1) 経験者, 未経験者別の各項目得点

役に立った指導法の項目別の記述統計量, および母平均が1点(「どちらともいえない」)であると言えるかどうかについての*t*検定の結果を表3に示した。

経験者では表現上の技術およびメンタル面のサポートのほとんどの項目において有意に1点(「どちらともいえない」)より高かった。なお, 経験者においては「2. お手本を弾いてもらう」「4. 強弱について教えてもらう」はSD = 0.00であったため検定は行えなかったが, 全員が「あてはまる」を選択していた。未経験者においては全項目の平均値が1点(「どちらともいえない」)より高かった ($p < .01$)。

ピアノ経験者とピアノ未経験者を比較したところ, 「5. 楽譜に指番号を書いてもらう」($p < .001$), 「8. 楽譜を簡単なものにアレンジしてもらう」($p = .033$), 「14. 楽譜に階名を書いてもらう」($p = .013$), 「18. 楽譜の読み方を教えてもらう」($p = .001$) はピアノ

未経験者の方がピアノ経験者よりも有意に平均値が高かった(表3)。一方, 「4. 曲の中での強弱について教えてもらう」($p = .044$)の平均値はピアノ経験者の方がピアノ未経験者よりも高かった。

2) 最も役に立った指導法

最も役に立った指導法について, 選択した人数を項目別に示した(表4)。ピアノ未経験者の33.3%が「8. 楽譜を簡単なものにアレンジしてもらう」を選択し, ピアノ経験者にも同項目を選択する学生がいた($f = 2, 14.3%$)。ピアノ未経験者では次いで「2. 知らない曲のお手本を弾いてもらい, どのような曲かを知る」を選択した学生が多く(16.7%), これはピアノ経験者では最も多く選択された(28.6%)。

4. 考察

調査2では, 調査1で回答された役に立った指導法についての自由記述をもとに質問項目を作成し, 調査

表3. 役に立った指導内容: 入学時のピアノ経験による差

	経験有り ($n = 14$)				経験無し ($n = 37$)				2群の平均値の差			
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i> (13)	<i>p</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i> (36)	<i>p</i>	<i>t</i>	<i>df</i>	<i>p</i>	<i>d</i>
基礎的な技術												
2.お手本を弾いてもらう	2.00	0.00	-	-	1.97	0.01	36.00	<.001 ***	1.00	36	.324	2.68
5.楽譜に指番号を書いてもらう	0.57	0.65	2.48	.028 *	1.54	0.01	4.76	<.001 ***	4.55	49	<.001	2.91 ***
8.楽譜を簡単なものにアレンジしてもらう	1.43	0.85	1.88	.082 †	1.97	0.01	36.00	<.001 ***	2.38	13	.033	1.24 *
10.指使いについて教えてもらう	1.29	0.99	1.08	.302	1.86	0.01	12.55	<.001 ***	2.11	15	.052	1.13 †
11.両手で弾きやすくなるための工夫を教えてもらう	1.36	0.84	1.59	.137	1.84	0.01	11.54	<.001 ***	2.03	16	.059	1.11 †
14.楽譜に階名を書いてもらう	1.05	0.98	0.17	.865	1.81	0.01	9.51	<.001 ***	2.79	16	.013	1.52 *
18.楽譜の読み方を教えてもらう	0.71	0.91	1.17	.263	1.54	0.01	4.76	<.001 ***	3.48	49	.001	1.76 **
20.コードの読み方を教えてもらう	1.40	0.74	2.03	.063 †	1.35	0.01	3.16	.003 **	0.23	49	.816	0.13
表現上の技術												
1.リズムの取り方を教えてもらう	1.79	0.58	5.08	<.001 ***	1.85	0.01	14.71	<.001 ***	0.39	17	.699	0.22
4.強弱について教えてもらう	2.00	0.00	-	-	1.89	0.01	17.23	<.001 ***	2.09	36	.044	11.07 *
7.楽譜にかかれていた言葉や記号の意味を日本語に直して教えてもらう	1.36	0.74	1.79	.096 †	1.57	0.01	5.33	<.001 ***	0.99	49	.325	0.55
13.その曲のもつイメージについて教えてもらう	1.50	0.76	2.46	.029 *	1.51	0.01	5.15	<.001 ***	0.07	49	.948	0.03
16.曲のイメージに合った弾き方について教えてもらう	1.50	0.76	2.46	.029 *	1.81	0.01	10.68	<.001 ***	1.43	17	.170	0.79
メンタル面のサポート												
3.上達をほめてもらう	1.86	0.36	8.83	<.001 ***	1.95	0.01	25.10	<.001 ***	0.85	17	.406	0.47
6.努力をほめてもらう	1.93	0.27	13.00	<.001 ***	1.96	0.01	31.76	<.001 ***	0.46	49	.648	0.22
9.応援してもらう	1.93	0.27	13.00	<.001 ***	1.86	0.01	15.18	<.001 ***	0.62	49	.538	0.46
12.弾けなくても怒られない	1.36	0.84	1.59	.137	1.54	0.01	5.90	<.001 ***	0.91	49	.370	0.42
15.緊張しているとき, 落ち着くよう声をかけてもらう	1.43	0.65	2.48	.028 *	1.68	0.01	7.09	<.001 ***	1.32	49	.194	0.74
17.練習するよう激励してもらう	1.50	0.76	2.46	.029 *	1.70	0.01	6.92	<.001 ***	0.98	49	.331	0.52
19.ピアノを練習することによる利点を教えてもらう	1.50	0.65	2.88	.013 *	1.59	0.01	6.57	<.001 ***	0.52	49	.605	0.28

注) 経験有り: 入学時までにはピアノを習ったことがある, 経験無し: 入学時までにはピアノに触ったことがないまたは授業で習った程度, 0: あてはまらない, 1: どちらともいえない, 2: あてはまる, 2項目はSD = 0.00のため検定はできなかった, ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$

1と同一の学生を対象に、各指導法がピアノの上達にあたって役に立ったか否かを調査した。

ピアノ未経験者は、全支援について役に立ったと認識しており、特に、指番号を振ってもらい、階名を書いてもらう、曲を簡単なものアレンジしてもらったといった譜面上のサポートの得点が、ピアノ経験者よりも高かった。最も役に立った指導法についても楽譜のアレンジが最も多く選ばれている。ピアノ経験者が入学当初から楽譜や鍵盤に馴染んでいる一方、ピアノ未経験者は音楽についての知識が浅い、もしくはほとんどない状態であると考えられる。調査1において調査時にピアノを楽しんで弾いている学生数が入学時より増加している点を踏まえると、知識や技術が乏しい

状態でもピアノを弾けるような個別の支援が、学生のピアノに対するポジティブな態度を引き出したのではないかと考えられる。

ピアノ経験者においては「4. 曲の中での強弱について教えてもらう」が未経験者よりも高く、すでに基礎的な技術を習得している学生へのより高度な指導が、学生のやる気を持続させていると推察される。全体を未経験者に合わせた指導ではなく、個々に合わせた指導のありようが伺える。

特筆すべきことに、メンタル面のサポートは経験者、未経験者を問わず高い得点を示しており（表3）、最も役に立った指導法としても技術面より重視している学生もいる（表4）。個々に合わせた技術的な指導

表4. 最も役に立った指導法（人）

		経験有り (n=14)	経験無し (n=36)	全体 (n=50)
基礎的な 技術 (f=36)	2. 知らない曲のお手本を弾いてもらい、どのような曲かを知る	4	6	10
	5. 楽譜に指番号を書いてもらう	0	1	1
	8. 楽譜を簡単なものアレンジしてもらう	2	12	14
	10. 指使いについて教えてもらう	0	1	1
	11. 両手で弾きやすくなるための工夫を教えてください	0	3	3
	14. 楽譜に階名（ドレミ）を書いてもらう	0	5	5
	18. 楽譜の読み方を教えてください	0	0	0
	20. コードの読み方を教えてください	2	0	2
表現上の 技術 (f=6)	1. リズムの取り方を教えてください	2	0	2
	4. 曲の中での強弱について教えてください	0	1	1
	7. 楽譜にかかれている言葉や記号の意味を日本語に直して教えてください（「ゆっくり」「速く」「強く」など）	0	0	0
	13. その曲のもつイメージについて教えてください	0	1	1
	16. 曲のイメージに合った弾き方（表現）について教えてください	1	1	2
メンタル面の サポート (f=8)	3. 上達をほめてもらう（「上手に弾けているね」など）	0	1	1
	6. 努力をほめてもらう（「がんばっているね」など）	0	3	3
	9. 応援してもらう（「がんばれ」など）	1	1	2
	12. 弾けなくても怒られない	0	0	0
	15. 緊張しているとき、落ち着くよう声をかけてもらう	1	0	1
	17. 練習するよう激励してもらう（「もっと練習してね」など）	0	0	0
	19. ピアノを練習することによる利点を教えてください	1	0	1

注) 経験有り：入学時までにはピアノを習ったことがある。経験無し：入学時までにはピアノに触ったことがないまたは授業で習った程度、経験無し群で欠損値1件

に加え、それぞれの学校生活での様子や変化を見逃さず、随時声かけを行う姿勢が求められることが示唆された。

総合考察

本研究では、保育士養成課程在学中の学生を対象としたアンケートを用いて、学生のピアノの上達や授業に対する印象を検討した。本調査結果から、学生がピアノの学習にあたってどのように感じ、授業に臨んでいるのかを推察することができる。ここでは、特に調査2において学生が重視していた点について、第二著者の実際の指導内容を紹介しながらピアノの教授について考えていきたい。

まず、調査1より、保育学生の多くが入学時にピアノ経験がない、または浅く、楽しんで弾く学生は少ないということが明らかとなった。多くの学生は、ピアノに対する不安を抱いて入学してくる。特に音楽においては、知らぬ間に自分自身に暗示をかけてしまい、歌声が気持ち良く出なくなったり指を滑らかに動かさなくなったりする学生がいる。青年期は感受性や羞恥心などが幼児・児童期よりも際立つ時期であり（堤、1983）、これらが音楽における学習には大きな影響を及ぼしうる。そこで、第二著者の行う授業においては、まずは自分の限界を払拭することから取り掛かる。笑顔を失うことは、特に音楽の学びにおいては、成長を妨害することに直結すると考えている。ピアノを弾ける可能性は無限であることを感じさせながら、良い点は極力褒め、次に繋がるよう、少しずつ改善点を指導していく。本来であれば、階名等を書くことによる弊害は多く望ましいとは言いがたい。しかしながら、「ピアノを弾ける喜び」を重視した指導においては、階名を書くことは有効な支援であると考えている。

最初は左手のパートはコードで弾くよう指導し、コードで弾けた時点でおかず（フィルイン、Fill-In）を加え、曲の幅の広げ方を伝える。基本はバイエル、ブルクミュラー25番、ソナチネアルバム等を用いる。こうした、学生に馴染みのある童謡やポピュラー音楽とは別のいわゆる教本の中の曲であっても、練習を進めていくうちに、楽しそうに弾く様子が見られることがある。

進度には幅があり、全ての学生が満足いく授業は非常に難しい。これは多くの音楽系指導教員が感じる課題ではないだろうか。進度に合わせてグループを作れば選曲も少なく楽ではある。しかし、優劣をつける形

は可能性を潰すように感じられる。そこで、第二著者は出席番号順の完全個別制のレッスンを採用している。時々全員の前で弾くという機会を設定することで、緊張することに慣れさせ、また、ピアノをなかなかうまく弾けない学生に対して全員で応援するという気持ちを養わせている。

最後に、学生の生活面や気持ち等に変化が生じるとピアノの音や進度に影響を及ぼすことが経験上感じられる。他の先生方と情報交換を行い、学生の生活状況を常に把握することもまた、ピアノ指導の大切な点であると考えている。

まとめと展望

ピアノの課題を多く与え弾かせる手法を取るか、それとも弾いてみたいという興味と意欲を優先させる手法を取るかについては、長いスタンスで考えることが必要であろう。音楽は心を育むものであり、また、幸せと平和の象徴であると感じられる。その音楽を教える教員にとっては、学生が「音楽は楽しい」「幼児に音楽の楽しさを伝えたい」と感じるようになることは特に嬉しい点であろう。本研究では特定の音楽指導教員の指導法を追究することでそうした音楽の教授において効果的な指導の一端を明らかにした。本研究結果は、保育学生への指導についての難しさを感じる教員へ示唆を与えるものであると考えている。

謝辞

調査に協力してくださった学生の皆様に深くお礼申し上げます。

文献

- 平松 愛子 (2009). 基礎技能「音楽」における学生の読譜力についての一考察 - 通信教育部保育科の学生への調査をもとに -, 近畿大学九州短期大学研究紀要, 39, pp. 39-49.
- Kim, J., Wigram, T., & Gold, C. (2009). Emotional, motivational and interpersonal responsiveness of children with autism in improvisational music therapy. *Autism*, 13(4), pp. 389-409.
- 厚生労働省 2018. 保育所保育指針解説.
- R Core Team (2019). R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for

Statistical Computing, Vienna, Austria. URL
<https://www.R-project.org/>.

齊藤 美和子 (2013). 保育者養成におけるピアノ指導
 の現状と課題, 人間生活学研究, 4, pp. 71-77.

堤 雅雄 1983. 着恥論への予備的考察., 島根大学教
 育学部紀要 (人文社会科学), 17, pp. 1-7.

Yazejian, N., & Peisner-Feinberg, E. S. (2009). Effects
 of a preschool music and movement curriculum on
 children's language skills. NHSA dialog, 12(4), pp.
 327-341.

附録1. 調査1で用いた習得状況についての問い

教示文: 次の各項目について、あなたに当てはまるものに○、当てはまらないものに×をつけてください。例1と
 例2のように、入学時と現在のそれぞれについて答えてください。

項 目	入学時	現在
例1) お箸を使うことができる。	○	○
例2) ピーマンを食べるができる。	×	○
1. 右手だけで弾くことができる。		
2. 左手だけで弾くことができる。		
3. 両手で弾くことができる。		
4. 曲の内容をイメージして弾こうとしている。		
5. ピアノを楽しんで弾いている。		
6. 楽譜に階名 (ドレミ) が書いてあれば、楽譜を見て弾ける。		
7. 一人で練習をしている。		
8. 友だちに教えてもらいながら練習する。		
9. ピアノ教室に通っている。		
10. 曲のリズムをイメージして弾いている。		
11. 楽譜を読むことができる。(時間がかかっても良い)		

附録2. 調査2 で用いた役立つ指導内容についての問い

教示文：短大入学から現在までにあなたが受けたピアノの授業や練習について思い出してください。次の**音楽担当教員からの指導**について、あなたがピアノをうまく弾けるようになるために役に立ったかどうか、当てはまるものに○を付けてください。

	あてはま ら ない	どちらと も いえない	あてはま る
1. リズムの取り方を教えてもらう			
2. 知らない曲のお手本を弾いてもらい、どのような曲かを知る			
3. 上達をほめてもらう（「上手に弾けているね」など）			
4. 曲の中での強弱について教えてもらう			
5. 楽譜に指番号を書いてもらう			
6. 努力をほめてもらう（「がんばっているね」など）			
7. 楽譜にかかっている言葉や記号の意味を日本語に直して教えてもらう（「ゆっくり」「速く」「強く」など）			
8. 楽譜を簡単なものにアレンジしてもらう			
9. 応援してもらう（「がんばれ」など）			
10. 指使いについて教えてもらう			
11. 両手で弾きやすくなるための工夫を教えてもらう			
12. 弾けなくても怒られない			
13. その曲のもつイメージについて教えてもらう			
14. 楽譜に階名（ドレミ）を書いてもらう			
15. 緊張しているとき、落ち着くよう声をかけてもらう			
16. 曲のイメージに合った弾き方（表現）について教えてもらう			
17. 練習するよう激励してもらう（「もっと練習してね」など）			
18. 楽譜の読み方を教えてもらう			
19. ピアノを練習することによる利点を教えてもらう（「ピアノを弾けることが現場で役に立つ」など）			
20. コードの読み方を教えてもらう			

⇒ 上の項目のうち、一番役に立ったと思う指導内容の番号を書いてください ()